

生徒の性格によるスポーツの指導の違い The difference of instruction depended on pupils' personality at sport

1K08A247-0

指導教員 主査 山崎 勝男 先生

熊代 真弓

副査 葛西 順一 先生

第一章:序論

私は硬式テニスを高校までは選手としてしてきて、大学からは指導者として硬式テニスに関わっている。その中で、生徒の目的や性格によって、指導者も指導方法や接し方を変えていることが分かった。スポーツカウンセラーの衣川達也さんは、人の気質を（１）行動タイプ、感情タイプ、思考タイプ、（２）攻撃的、逃避的、調和的、（３）大人気質、子供気質の８つに分類している。この気質の分類を用いて、指導者は生徒の性格によってどのように指導方法を変化させているのかを、褒める指導と叱る指導の比較によって調査する。

また、YG 性格調査を用いて安田昭子氏は、個人競技と団体競技の性格の違いを検討し、競技種目によって選手の気質や性格特性は一樣ではないとしている。そこで、団体競技である野球と個人競技であるテニスの指導方法を比較する。

第二章:方法

本研究では、個人競技と団体競技の指導方法の比較も行うため、テニスの指導者 24 人、野球の指導者 21 人に以下の 6 つのアンケートに答えてもらった。

- （１） 指導する際、生徒によって指導方法を変化させていますか。
- （２） 生徒のモチベーションを上げるために、叱ることと褒めること、どちらを多くしますか。
- （３） 生徒への叱り方はどのようなものですか。
- （４） 生徒への褒め方はどのようなものですか。
- （５） 生徒の性格によって指導方法をどのように変えていますか。
- （６） 生徒へのメンタルトレーニングを行っていますか。

第三章:結果

テニスと野球両方において、生徒によって指導方法を変えていることが分かった。また、生徒の性格によっても叱ることと褒めることの比率において、テニスと野球に違いがみられた。

メンタルトレーニングについても、テニスと野球、それぞれのトレーニングを行っていることが分かった。

第四章:考察

指導者は生涯スポーツか、競技スポーツなど、生徒

の目的によって指導方法を変えていることが明らかになった。また、８つの気質の分類による生徒の性格によっても、指導方法は異なり、指導者は生徒の性格によっても指導方法を変化させていることが分かった。

指導者には、選手の内発的なモチベーションを引き出すことのできる褒め方や叱り方（アドバイス）が重要で、テクニックを身につける必要がある。自分から考えて積極的に動けない選手をどう自分から動くようにするかというのも、指導者の技術であると考え。つまり、やらされる練習を真剣に取り組ませるための選手のモチベーションづくりも、指導者にとって重要である。

選手にいいイメージを持たせる指導が褒める指導である。何をどう褒めるか、またいつどのタイミングで褒めるか、どれくらいの回数何を褒めるかで、選手の頭の中の成功イメージの鮮明さが全く変わるはずである。また、叱ることは、生徒が指導者の言葉を受け入れ、納得し、アドバイスと捉えられるものでなくては意味がない。叱り方のテクニックというのは指導者には欠かせないものであり、それも生徒の性格に合わせて違った叱り方が必要となる。そしてそのコーチングテクニックは、生徒の競技力向上に大きく影響する。

第五章:結論

指導者には相手のニーズや要望にあわせ、同じことを伝えるにも、相手に応じて話し方を工夫するなど、個々人の特徴に対応した一対一のコミュニケーションを図ることが求められる。また、子供の性格も多様化している。そのような多様なニーズに的確に対応するため、常に自己研鑽を図り、自ら成長・発展し、周囲から尊敬・信頼される人間であることが求められている。指導者の心理についても同様の事が言えると考え。

競技スポーツの主体が選手であることは、疑いのない事実である。しかし、今日の競技スポーツにおいて優秀な指導者の存在は、必要不可欠である。選手とコミュニケーションをとりながら、選手が「何を考え」、「何を求めているのか」を適切に判断し、その時その場に合った指導をすることが重要なのである。